

福岡園芸試験地

公益財団法人日本植物調節剤研究協会
福岡園芸試験地 主任
井上 恵子

1. 福岡園芸試験地の概要

福岡園芸試験地は2019年に福岡県糸島市に開設し、今年で7年目になる。

当試験地では野菜、果樹における植物調節剤の作物残留試験を、試験地主任（井上恵子）と臨時職員2名の計3名体制で行っている。

野菜の作物残留試験は事務所に隣接する露地圃場910㎡（図-1）と240㎡のビニルハウス1棟（図-2）で行っており、果樹は温州みかん、キウイフルーツ、ぶどうの試験を福岡県筑紫野市の圃場を借り上げて実施している。

野菜は果菜、葉菜、根菜と多岐にわたっており、毎年違う数種類の野菜を市場出荷できる品質で栽培しなければならず、色々な苦勞もあるが、職員一同で楽しく栽培している。

作物残留試験は正確に被験物質を処理し、正確に記録することが重要なので大変な面もあるが責任とともにやりがいを感じている。

2. 糸島市の自然と農業など

糸島市は福岡県の最西端に位置し北は玄界灘に面し、東は福岡市、西は佐賀県唐津市、南は背振山系を境に佐賀市に接した人口約10.3万人の自然豊かな田園都市である。

気候は日本海型気候に属し、冬期は晴天が少ないものの対馬暖流の影響を受け、比較的温暖で年間平均気温は17℃、年間降水量は1,750mm（平年値）である。

糸島地域の土壌は花崗岩、閃緑岩の深成岩類が多く分布する崩壊土壌で堆積層（粘土土壌）から沖積層（砂質土壌）と幅広い土質でおおわれており、土壌に応じて各種農産物の生産がおこなわれている。糸島市の農地は6,020ha（全体の28%）で、米麦類、野菜（いちご、キュウリ、ブロッコリー、キャベツ等）、果樹（柑橘）、花卉の栽培や畜産が盛んである。また、水産業も盛んで天然鯛の水揚げ量は日本一である。近年は牡蠣の養殖も盛んにおこなわれ漁港周辺に立ち並ぶ牡蠣小屋は地元の人や観光客で賑わっている。

福岡園芸試験地は糸島平野の中でも東よりに位置し、九州一の繁華街である福岡市天神地区から20km程西にある。また、10kmほど南には井原山（982m）、雷山（955m）、4kmほど東には高祖山（416m）、北西には可也山（図-3、糸島富士）、13km北には玄界灘と山や海に囲まれており、近くの瑞梅寺川流域では6月上旬ごろにホテルを見ることができる。

試験地の圃場は沖積土壌、土性は砂壤土で、水はけがよく畑作物の栽培に適している。



図-1 試験地の露地圃場



図-2 試験地のビニルハウス



図-3 試験地から見る可也山



図-4 雷山千如寺の大楓の紅葉



図-5 井原山のオオキツネノカミソリ群落

3. 糸島地域の見所

海岸の景勝地として、夕日が美しい「桜井二見ヶ浦」や玄海国定公園の指定を受けた日本最大の玄武岩の洞窟がある「芥屋の大門」がある。

山側では、羽金山の中腹に福岡県指定景勝地である「白糸の滝」があり、四季折々の美しい自然が楽しめる。その近くには178年に開創された「雷山千如寺」があり、「本尊の十一面千手千眼観世音菩薩」（高さ4.6m、国の重要文化財指定）と樹齢400年を超える大楓は見ごたえがある（図-4）。楓の紅葉の時期には多くの人で賑わっている。

また、雷山の東側にある「井原山」は四季折々の花を楽しませてくれる。特に5月上旬の山頂付近はコバノミツバツツジに彩られ、7月中旬から8月上旬はオオキツネノカミソリが水無谷の斜面に咲き乱れる（図-5、西日本一の群落、看板表示）。独立峰である可也山は別名糸島富士とも呼ばれ山頂からは玄界灘が一望できる。

史跡としては、古墳も多く、日本最大の銅鏡が発掘された「平原遺跡」（伊都国王墓と考えられている）が有名。また、2023年に重要文化財に指定された「櫻井神社」（1625年創建）も趣のある神社である。